

# 多民族社会アメリカにおける アジア系アメリカ人の動向

若 林 努

キーワード

移民 (Immigrant)

エスニック集団 (Ethnic Group)

アジア系アメリカ人 (Asian Americans)

移民法 (Immigration Reform and Control Act)

## はじめに

アメリカ社会を構成する人種・民族集団は、彼等がアメリカにやって来た背景から分類することができる。初期のヨーロッパからの移住者がやって来る以前からの先住民であるインディアンとその子孫、自らの意志で新大陸に夢を求めてやって来た西欧人とその子孫、奴隷として強制的にアフリカから連れてこられた黒人とその子孫、近代国家としての形成過程において労働力としてアメリカに渡って来た人達とその子孫、そして、20世紀になりアメリカが積極的に対外政策を転換することによって政治的、経済的な理由でアメリカに渡って来た人達とその子孫である。

本稿では、20世紀になって主にアメリカに移住して来た人達の中で、特にアジアからの移民について、共同研究のテーマである「国家政策と民族の共生」の観点から、それぞれの民族がどのようにアメリカ社会に関わっているかを考察する。

## 1. 歴史的背景

連邦政府の移民統計が正式に取られはじめた1820年から、約50年間に4200万人余りの移民が、アメリカに入国した。その3分の1近くが、1890年代から1900年代初期にかけての20年間に入国している。この頃に、それまでのアイルランド、イギリス、ドイツ、スカンジナビア諸国からの移民が減少し、東・南ヨーロッパ諸国からの移民が増加しはじめた。この時期に増加した移民をそれ以前の移民と区別して新移民と呼んでいる。

新移民が移住を決意した背景には、経済的な困窮の問題がある。それは旧移民が故国を離れた動機の一つでもあったが、新移民にとってはなお一層大きな要因であった。当時のヨーロッパでは、産業革命による工業化が急速に進展し、同時に人口も著しく増加し、農業収入だけでは家族を支えるのに十分な収入を得ることが困難になっていた。そのため、多くの農業従事者が、工場などの賃金労働者となる傾向が強くなっていた。しかし、当時の工場は、それらの人達全てを吸収するほど発達していなかったために、余剰労働の一部が、新大陸にその場を求めることになった。このように、西ヨーロッパでの工業の発達と農業社会の崩壊が、東・南ヨーロッパから多くの移民を送りだすことになった。また、政治的、宗教的な抑圧もアメリカへの移住の重要な要因となっていた。例えば、当時の東ヨーロッパ諸国、なかでもハンガリー、オーストリアなどの多民族国家では、自分達の文化、言語、宗教が抑圧されている少数民族が多数存在した。これらの集団がこのような抑圧から逃れ、自由を得るために移民として新大陸に移住する大きな動機となった。

一方、当時のアメリカには移民を引き付ける多くの要因が存在した。それはアメリカの経済的な繁栄にともなう慢性的な労働不足、なかでも非熟練労働の不足の問題であった。その需要を満たすために、多くの移民を必要とした。しかし、既に工業化が進んでいる西ヨーロッパ諸国では、アメリカが提供する低賃金労働には興味を示すことはなかった。

出身国別移民

出身国	1951 - 1960 年	1961 - 1970	1971 - 1980	1981 - 1990	1991	1992
ヨーロッパ	1,492.2	1,238.6	801.3	705.8	135.2	145.4
アジア	157.1	445.3	1,633.8	2,817.4	358.5	357.0
中国	32.7	96.7	202.5	388.8	46.3	55.2
香港	3.1	25.6	47.5	3.0	10.4	10.5
インド	3.1	31.2	176.8	261.9	45.1	36.8
日本	44.7	38.5	47.9	43.2	5.0	11.0
韓国	7.0	35.8	272.0	338.8	26.5	19.4
フィリピン	17.2	101.5	360.2	495.3	63.6	61.0
ヴェトナム	2.0	4.6	179.7	401.4	55.3	77.7
北アメリカ	769.1	1,351.1	1,645.0	3,125.0	1,211.0	384.0
カナダ	274.9	286.7	114.8	119.2	13.5	15.2
メキシコ	319.3	443.3	637.2	1,653.3	946.2	213.8
キューバ	78.3	256.8	276.8	159.2	10.3	11.8
アフリカ	16.6	39.3	91.5	192.3	36.2	27.1
移民総数	2,515.5	3,321.7	4,453.3	7,338.1	1,827.2	974.0

(出所) U. S. Department of Commerce, Bureau of Census, *Statistical Abstract of the U. S.*

大陸横断鉄道の完成による交通網の整備によって、経済活動の広がり、19世紀の初頭に大西洋岸に人口が集中し、農業国であったアメリカは、19世紀末には巨大な工業国に変貌していた。この頃の多くの移民は、大都市を目指し、そこで工場労働者となっていた。また、アメリカに渡ってきた移民の多くは、故国の家族や友人に手紙で連絡をし、その中で自分達の希望がかなえられたという楽観的なことを伝えた。それを聞いた人達が、アメリカへの移住の決意を促すことになった。一方、アジアからの移民は、新移民のカテゴリーに入るが、ヨーロッパからの移民とは異なった歴史を持っている。中国からの移民の多くは、東南アジアからカリブ海まで広がる華僑の一部の人達である。1850年に4万人を超える中国人が、大平洋を渡った。ゴールドラッシュに続く1850年代は、大陸横断鉄道の建設に安い賃金の労働者の需要が高まった時期であった。鉄道建設が終わった後でも、アメリカに留まった中国人は、農業労働者、コック、洗濯屋などで働いた。中国人は安い賃金で長時間働くために、雇用者に好まれた。しかし、1882年に移民制限立法である中国人排斥法が制定されると、中国人人口は急速に減少することになった。1930年代になって、再び中国人人口が増加に転じたのは、共産主義革命にともなうそれを否定する亡命者がアメリカへと入国する者が増えたこと、1965年の移民法改正によって新しい移民が増加したことによるものであった。

一方、日本人移民が増加しはじめたのは、1880年代の日本の資本主義経済への移行が始まった1880年代の日本の産業資本の形成期での農村経済の困窮から、労働力が都市部や海外へ流れたことによるものであった。アメリカの労働力不足は、他の国からの移民と同様に日本人移民を引き付けた。多くの日本人移民は、お金を貯えることを目的としたため悪条件でも大変良く働いた。

## 2. エスニックグループの形成

新移民として入国した移民は、大きな問題に直面した。非熟練労働者は終わることのない貧困のなかで、新世界の生活様式を習得しなければならなかった。彼等は、自分達の古い習慣を新たな状況に適應させなければならなかった。これは、言語、思考様式、信仰、家族形態などあらゆる面にわたるものであった。

アジア系エスニック集団とは、アジア系および大平洋諸島系アメリカ人の範疇に分類される人々をいう。1990年の国勢調査では、730万人の人々がアジア系アメリカ人として統計されている。全人口の3パーセント弱の小さな集団であるが、その増加率はヒスパニック系、アフリカ系、白人の増加率と比較してかなり大きな増加率になっている。

アジア系移民は、過去10年の間に108%以上も増加し、この数字はヒスパニック系の2倍、アフリカ系黒人の8倍、白人の15倍となっている。このようにアジア系移民が増加している要因は、第一に移民としての増加である。1970年の国勢調査によると、日系アメリカ人が最大のアジア系アメリカ人（59万人）であったが、1980年国勢調査

では中国系 80 万人、フィリピン系 77 万人、日系 70 万人となり、そのうち日系人口では外国生れ（アメリカ以外の国）28 %であるのに対して中国系では、外国生れ 63 %となり、特に、中国からの移民の増加が分かる。

第二に移民増加の要因はとして、1965 年移民法の改正が指摘される。この法律で、これまでの出身国別割り当て制が廃止され、1 国当たり 2 万人以下という制限つきになったことである。その割り当て制では、東半球から 17 万人、西半球から 12 万人となり申請順に資格審査によって移民が受け入れられた。その優先資格はアメリカ社会で需要の高い職種、技術者や、アメリカに家族が居住している者が優先された。

第三に難民としての増加である。第 2 次大戦中から難民の受け入れに積極的に取り組み、政治難民の受け入れは「アメリカの外交政策」の重要な一部として見なされた。例えば、

- ・ 1957 年：ヴェトナム、カンボジアの共産主義化

この地域からの難民の緊急受け入れを実施し、これ以後この地域からの移民が増加し、「インドシナ難民」としてアメリカ社会に定着することになった。

- ・ 1980 年難民法の制定

この法律の制定によって受け入れ難民の枠の拡大や、イデオロギー、人種、国籍の規制の廃止が決められると、これまでの政治難民だけでなく、経済的な困窮からのがれるために入国した経済難民も増加することになった。

この結果、政治難民のほか経済難民（ボートピープル）として受け入れた移民の推移は次のようになった。

1961-70 : 21 万人（うちアジア系 9 %）

1971-80 : 54 万人（うちアジア系 40 %）

1981-90 : 75 万人（うちアジア系 72 %）

特に、アジア系の移民の多くが、定住地域としてカリフォルニアに 40 パーセントとその多くが住み、ニューヨーク州、テキサス州、イリノイ州、ニュージャージー州の順になり、その各地に「リトル・サイゴン」「コリアン・タウン」「リトル・インディア」など独自のコミュニティを形成している。また、彼等は、これまでアジア系人口の少ない地域に進出し、この地域でのアジア系人口が急増している。

### 3. アジア系エスニック集団

#### 中国系アメリカ人

中国人のアメリカへの移民は、1869 年に完成した大陸横断鉄道の建設にさいして鉄道建設労働者として貢献している。1892 年の中国人排斥法により入国者が制限され、その後、長期に渡って移民としての増加はなかった。1965 年移民法により中国系アメリカ人のコミュニティが拡大し、アメリカ社会において専門職など中枢に位置する者も増加し

ている。東海岸、西海岸の大都市において中華街を形成し爆発的な人口増加を引き起こしている。他方、これらの大都市の郊外に裕福な中国系コミュニティが現れ、アメリカ社会の主流に同化している者も近年増加している。

#### 日系アメリカ人

中国人が 1882 年に入国を禁止された以降に、日系人は、カリフォルニア州を中心に移民が広がり、1924 年に禁止されるまで移民は続いた。日系人は第二次世界大戦時に、それまで住んでいた西海岸から内陸部へ強制的に移住させられ、戦後は移民した時点と同じようにゼロからの出発となった。しかし、日系人は第二次対戦中の活躍や、教育水準の高さ、戦後の日米関係の好転などにより短期間に社会的、経済的、政治的地位が向上し、アメリカ社会の中流階級に入り込んでいる。日系人の教育水準は、アメリカ社会全体の平均を上回り、それにより専門的な職業の従事者が多い。また、政治的にも集団規模にくらべて大きく、連邦議会、地方議会に多数の代表を送り込んでいる。そのため、日系人は「成功したマイノリティ」と呼ばれている。

#### 韓国系アメリカ人

韓国系アメリカ人は、1980 年代に急増している。1965 年移民法の以前は、少数の韓国系の人達が各地に拡散していた。今日では、多くの大都市にコリアン・タウンが出現し、小売業などの自営業を営み広くアメリカ社会に適応している。彼等の多くが、長時間労働を苦にすることなく働き、同族意識の強さによる連携を重んじ、資金面での組織力の強さも韓国系アメリカ人の特徴になっている。

#### フィリピン系アメリカ人

彼等は太平洋のプエルトリコ人と呼ばれ、他のアジア系とは少し異なるアジア系アメリカ人である。特に、第二次大戦後に、強いアメリカの影響下にあったフィリピンの特殊な事情による。フィリピン系の多くが、都市出身者の人達であり、その多くが医者、看護婦などの専門職、技術者で占められ、女性の割合が高くなっている。彼等の多くは英語に不自由なくアメリカ社会での適応が容易である。また、他のアジア系の人達とは異なり、非アジア系との婚姻も急増する傾向にある。彼等は「マニラタウン」に集中することなく「目に見えない」アジア系として広くアメリカ社会に分散している。

#### インド系アメリカ人

1970 年まで統計にインド系の分類はなく、彼等は白人のカテゴリーに入れられていた。1975 年公民権法の成立に関連して、インド系アメリカ人のアイデンティティが問題となり、彼等のマイノリティとして分類する主張が認められ、1980 年の統計から「アジア系アメリカ人」として正式に分類されるようになった。彼等の多くが旅行業、レスト

ラン、ホテルなどの経営に従事し、1980年の統計によるとアメリカのホテル、モーテルの28%はインド系アメリカ人が経営している。

#### ヴェトナム系アメリカ人

ヴェトナム系アメリカ人が急増するようになったのは、ヴェトナム戦争に大きく関連している。1964年の統計によると、当時のヴェトナム系アメリカ人はわずか603人にすぎなかった。ところが、ヴェトナム解放後の1975年の1年間に、13万人のヴェトナム人が難民として移住している。1980年の統計によると、ヴェトナム系アメリカ人人口の90%はアメリカ以外で生まれた人達である。このような状況について、アメリカ社会において、戦争に国民を引きずり込んだアメリカ政府に対して批判が集中するとともに、このような批判は、結果としてヴェトナム系アメリカ人の立場を複雑にしている。彼等の中で、レストランやスーパーマーケットの経営などに成功している者もいるが、その多くは、アメリカ社会に馴染めず疎外感を抱いて生活している者が多く見られる。

#### 4. アジア系アメリカ人のアイデンティティ形成の動向

アメリカ社会におけるアジア系アメリカ人は多様な集団から形成され、白人やその他のヨーロッパ系アメリカ人の形成するアイデンティティとはかなり異なっている。アメリカ社会における彼等の多様性は、歴史、宗教、言語、文化的背景などが異なり、それぞれの集団に大きな違いが存在する。特に、経済的な側面において、アジア系の平均所得はアメリカ全体の平均より高いとされているが、個々の民族によって大きな差が存在する。一般的に日系、中国系、韓国系家族の平均所得は、白人家族の平均より高く、他方、フィリピン系、インド系家族の平均所得は白人家族の平均所得より低い。中でも、ヴェトナム系家族の平均所得は白人家族の50%～60%しか得ていない。このように経済的な側面において、民族集団によって格差が生じるのは、それぞれの集団の移民の事情が大きな要因になっている。他方、アジア系アメリカ人は、アメリカ社会においてもっとも成功した民族集団としてみなされている。それは日系、中国系アメリカ人の平均所得や教育水準が、白人のそれを上回ったりしている実情からそのように判断される傾向があるが、必ずしもアジア系全体にあてはまるものではない。ヴェトナム系アメリカ人の多くは、貧困水準以下の所得層であり、このような多様性ゆえに、アジア系を一つの集団として扱うことは適当でないとする議論がある。アメリカ社会において、アジア系アメリカ人としての一つのアイデンティティを形成するには、経済的、政治的側面からにおいてかなりの時間を要するであろう。

参考文献

- U. S. Department of Commerce, Bureau of the Census. *Statistical Abstract of the United States 1999*. Government Printing Office, 2000
- Taylor, Philip. *The Distant Magnet : European Immigration to the U. S. A*. Harper and Row Publishers, 1971
- Jiobu, Robert M. *Ethnicity and Assimilation: Blacks, Chinese, Filipinos, Korea, Japanese, Mexicans, Vietnamese and Whites*, State University of New York Press 1988
- Olson, James S. *The Ethnic Dimension in American history*. St. Martin's Press 1994.
- Yetman, N. R. *Majority and Minority: The Dynamics of Race and Ethnicity in American Life*. Allyn & Bacon, 1991.
- Gann, L. H. and Duignan, Peter J. *The Hispanics in the United States : A History*. Webster Press, 1986.
- Juffras, Jason. *Impact of the Immigration Reform and Control Act*. Rand Corporation Urban Institute, 1991.
- Hing, Bill Ong. *Making and Remaking Asian America Through Immigration Policy*. Stanford University Press, 1993.
- Kitano, Harry L. and Roger Daniels *Asian Americans*. Prentice-Hall, 1988.
- Reimers, David M. *Still the Golden Door: The Third World Comes to America*. Columbia University Press, 1992.
- Takaki, Ronald. *Strangers from a Different Shore : A History of Asian Americans*. Little, Brown, & Co., 1989.